

令和8年度 Mine みらいトーク＜厚保地区＞

日時:令和8年7月13日(月) 17:27～20:19 場所: 厚保公民館 大会議室

個人	
テーマ	・厚狭川の河川工事について ・美祢線のBRT化について

要望・質問内容等	当日の回答	補足説明等
2023 年の洪水で甚大な被害を受けた住宅地ではなく、人家のない上流部から工事が着手されている点に強く心配しています。県が示す計画（掘削、引堤、築堤）について、掘削はすぐ埋まり無駄だと思います。また、引堤で川の流れが速くなることで下流部に新たな水害リスクが生じる懸念があるため、工事の優先順位を見直し、被害の大きかった地区を優先するべきです。 築堤や橋の具体的な位置・設計が住民に示されておらず、不安が解消されません。最終案が固まる前に住民の意見を聴取し、計画に反映させるべきです。 県の計画通り工事を進めて新たな被害が出た場合、誰が責任を取るのかが不明確です。住民の納得が得られていないのではないかと考えます。	地域の皆さんの不安は理解できます。 県に対し、工事着手前の具体的な現地説明会の実施を強く働きかけます。それでも解消されない不安については、市長から県知事への要望として正式に提出することも検討します。 まず、市の土木担当者が県から詳細を聞き取り検討します。	（職員補足） 現在は用地買収を伴わない河道掘削を先行しているところです。被害の大きい四郎ヶ原駅周辺は用地買収を進めており、整い次第着工予定となっています。橋等の設計は最終案決定後に地元説明を行う見込みです。
BRTの停留所数が少なく、高齢者が利用しにくいと考えます。近隣を走るサンデnbas(同区間で 19 か所)と比較して圧倒的に不便ではないかと考えます。 現状、代行バスの日中の利用者は1～3人と極端に少なく、車両や停留所が変わらない限り、BRT 化後も利用	BRTについては定時性・速達性と利便性の両立を目指しています。停留所は多く設置したいところですが、速達性への要望やサンデnbasとの競合調整が必要となっているところです。 今後の具体的な計画は次のとおりです。	

者は増えないのではないかと考えます。 通勤・通学で定時性が求められる朝夕と、高齢者の通院・買い物利用が中心の日中で、便の性格(速達性重視／利便性重視)や車両サイズ(大型／小型)を分けるべきではないかと考えます。 市の高齢者向け 100 円バス事業と BRT の料金体系が異なり、利用の障壁となる可能性があります。	①快速ルートと通常ルートを検討。 ②停留所は厚保本郷、四郎ヶ原(新規)等を追加。 ③車両は需要に応じたサイズの導入を検討中。 ④10月から実証運行を開始し、利用実態により最終的な停留所を決定。 ⑤市民に実証運行の積極的な利用を呼びかける。	
---	--	--

団体	厚保の活性を求める会【2名】
テーマ	・厚保憩いの家(温泉)の移設について ・廃線の観光活用について ・桜の町美祢市としての管理等について ・移住者の支援について ・耕作放棄地対策について ・地域教育について

要望・質問内容等	当日の回答	補足説明等
憩いの家の現状は、立地が悪く駐車場も3台分しかない上、施設の老朽化(男湯のタイル剥離など)も進んでいます。県道沿いに移設し、厚保栗などの加工品販売所を併設すれば、人が集まる拠点になるのではないかと考えます。	提案として受け止め、検討します。	
他の地域で、廃線の活用方法としてレールバイク等の成功事例があります。 JR 美祢線の廃線跡にあるトンネルや鉄橋を活用し、	魅力的な提案である一方、廃線後 3 年が経過し安全性の確認が必要となります。 また、市が直接事業を行うことは難しく、担い手となる民間	

厚狭川の景観を周遊すれば、滞在時間を延ばす魅力的な観光資源になるのではないかと考えます。	組織の発掘が課題となります。	
厚保地区は桜が多いが、管理が行き届いていない箇所があります。 地区全体を「桜の町」として一体的に管理・PR すべきではないかと考えます。	他の地区からも同様の要望があります。 桜の所有者(市、地域、個人)が混在しており、管理主体が課題となっているところです。一方で落ち葉の問題から伐採を望む声もあり、地域での合意形成が重要となります。	
市外からの移住者が孤立しないよう、市職員が年1回訪問し、相談にのるべきです。 寄り添う姿勢が、市の人気向上につながるのではないかと考えます。	市の移住相談を経て、転入された方の状況は把握可能ですが、個人的に転入された方の把握は困難な状況です。 プライバシーの観点から、訪問の是非や手法は慎重な検討が必要となります	
耕作放棄地については、例えばブルーベリー栽培などの活用法があります。 新規就農や法人設立を支援する補助制度を、分かりやすく周知すべきではないかと考えます。	農業法人に対しては、県や農協と連携して経営改善等の支援を行っています。 農地の斡旋は農業委員会が担当しており、窓口が分かりにくかった点は改善の余地があると考えます。	
かつて、鉛筆の芯の材料を採掘していた草場山の鉱山跡など、地域の歴史や地質、資源について再発見し、子どもたちが学ぶ機会を、ジオパークと連携して創出する必要性があるのではないかと考えます。	魅力的な提案であるため、文化財保護課に指示し、調査を進めてまいります。	

団体	厚保老人会寿会【2名】
テーマ	・技術の伝承と特産品開発について ・移動手段の確保について ・ジオカルタについて ・憩いの家について ・空き家問題について

要望・質問内容等	当日の回答	補足説明等
高齢者の責務として野菜作りや保存方法、加工など、技術の伝承の必要性を考えます。 旧厚保学校給食共同調理場を活用し、高齢者の知見を活かした農産加工の研究開発を提案します。	当該施設については、現在、民間事業者と活用に向けた協議を進めている段階です。協議の中で本件に触れ、検討してまいります。	
自家用車を運転できなくなった際の買い物や通院の手段を強く心配しています。 買い物弱者対策として、週 1 回等の「買い物ツアーバス」の運行について要望します。	厚保地区全域で利用可能な予約制乗合交通サービス(ジオタク)があります。 利用方法について、老人会の集まり等で説明会を開催することは可能です。	
遊びながら地域を学べる「ジオカルタ」を作成し、各学校や家庭への配布について提案します。	貴重な提案であり、活用しやすい側面もあることから、検討してまいります。	
利用者がほぼいない厚保憩いの家の温泉施設は、税金の無駄遣いです。閉鎖も検討すべきではないかと考えます。	利用者数が少ない事実は認識しています。事業のあり方については検討が必要ですが、源泉は地域の資源として維持する必要があると考えます。	
所有者不明の空き家や、解体されずに放置されている空き家への対策についてお尋ねします。	相続登記の義務化が開始されましたが、相続放棄された物件は行政でも対応が困難な場合があります。固定資産税は通常通り課税しています。	